

目指す学校像	1 建学の精神 本学園は、日本国民としての常道に従い、人は生きた資本なりの理想に基づき、建学の精神を「人間是宝」と決めました。この精神は、生徒の将来を考え一人一人の内在する可能性をいかに開花させるかということにあります。この精神こそ、本学園建学の理念であり、本校教育の根源をなすものであります。この建学の精神「人間是宝」と校訓「今日学べ」の具現に努め、大学進学と部活動を両立する進学校を目指します。 2 教育使命 若人の未来を考え、次のことを実践することを教育使命としています。 (1) 内在する可能性の開発 (4) 世界文化経済発展の先覚者としての自覚 (2) 創造する心と、知性の育成 (5) 平和世界に貢献する奉仕の心の育成 (3) 人間性豊かな徳操の涵養		
学校教育目標	1 けじめある心を育てる 2 自己開発の心を育てる 3 創意工夫の心を培う	4 敬愛と感謝を込めて生活できる心を育てる 5 健全な体と心をスポーツと文化で育てる	

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価				
年 度 の 目 標					年 度 評 価				
重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からのご意見・要望	評価
学力の向上と進路指導の充実	国公立大学の進学実績の向上を図る。 単なる進学校ではなく、学校行事や部活動に積極的に参加をさせながら、生徒が「主体的」に学び、すべてに全力を尽くせる学校づくりを目指す。 そのために、学習指導・進路指導を充実させるとともに教員の指導力向上を急務の課題として、研究会への参加、校内研修、他校の見学などを奨励し、情報の共有を図るようにしなければならない。	①国公立大学・難関私立大学の進学実績の向上 ②戦略コースの学力向上と全科・コースの進路実績数の向上 ③各科・学年と密に連携をとった進路指導の確立	●特別指導内容の充実(放課後演習・0時限授業・Classi・外部講師による演習講座・夏期講習・夏期集中講座・合宿学習・面接指導・小論文指導など) ●二者面談・三者面談の充実 ●進路指導センターの充実・活用 ●校外模試等の分析を更に充実し、教科指導に反映させる。 ●各学年の進路指導や達成目標を一元管理して推進する。	●国公立大学・難関私立大学合格者数増加 ●大学進学率の向上	●今年度の大学降格者数は、国公立大学41名、早慶上理23名、GMARCH76名、日東駒専203名、医歯薬22名・医療系大学70名、芸術系大学37名、体育系大学36名、総数1246名であった。 ●全体として進学は伸長したが、国公立やGMARCHに関しては、更なるレベルアップが必要である。	A	●国公立大学・難関著名大学合格者数の具体的な目標値を設定し、授業内容の研究・改善及び本校ならではの進路指導を充実させる。進路指導科を中心に様々な集会や講演会を開催して授業力向上に努める。 ●コースにより、2年次2月までの指導計画・指導方法の工夫改善をより一層進め、家庭学習を充実させ、2年次終了時点での基礎学力の向上・完成を目指す。 ●一律の学習課題ではなく、演習の拡充やICT教育、学力層ごとの課題を提示すること等で学力の向上を図る。	・スポーツの栄から進学の栄へと周囲の評価は変わってきている。様々な大学への進学が可能で生徒の選択肢が多いことが栄高の特色であり、今後も継続していただきたい。	A
入学定員の確保と改善	学則定員は、普通科560名、保健体育科160名の720名であるが、令和4年度入学生は1005名であった。今後も、より能力の高い生徒を確保することが課題である。	①志願者数の増大 ②能力の高い生徒の確保	●志願者の増加と質の向上を目指す ・学校説明会 年3回 ・入試相談会 年10回 ・部活動体験会の実施 ・普通科体験学習会 ●入学定員の確保 ・入学試験の改善	●受験者数の増加と合格者の学力向上 ●入学定員の厳守	●学校説明会、入試相談会、部活動体験会等には、のべ5825組が来校した。昨年の2.4%増。 ●志願者数は、2,407名であった。 ●入学者は993名で、定員を37.9%上回った。全体では32.7%オーバーとなっている。	B	●学校説明会、入試説明会、部活動体験会の回数・内容の工夫・改善を図り、効率を高める必要がある。 ●生徒数は、2,867名となり、32.7%オーバーとなった。今後とも、募集定員を遵守し、さらに生徒の質の向上に努めたい。 ●学校訪問を充実させ、本校の教育を理解してもらう。	・定員遵守は人気校においては難しい課題の1つと言えるが、更なる質の向上に向けて努力する必要がある。少子化の影響は大きくなる一方であるが、人間力のある人材の育成に期待したい。	A
部活動の充実と改善	令和3年度は全校生徒の85.9%が部活動に加入し、15部166名が全国優勝を果たしている。それを上回る成績を上げるとともに部活動加入率を向上させる。また、部活動と学業の充実を図るために早朝・放課後選択授業との連携が課題である。	①部活動加入率の向上 ②早朝・放課後選択授業との連携 ③部活動への支援体制の強化	●学期ごとに部員数調査を実施し、現状を把握することで全教職員で部活動を奨励する。 ●早朝・放課後選択授業との連携を深める。 ●施設設備の充実とその活用を図る。	●部員数調査の実施(各学期) ●早朝・放課後授業の内容の明確化 ●30以上の部活動が全国大会に出場し、15部以上が全国優勝する。	●全校の部活動加入率は85.2%となり、前年より-0.7%の減少となった。 ●運動部・文化部合わせて全国大会に述べ19部が出場し、延べ21部が全国優勝した。	A	●部活動加入率90%以上を目指す。 ●早朝・放課後選択授業との連携を強化し、学業と部活動が両立できることを周知する。 ●新しい施設の建設、リニューアルなどを進めているが、更なる施設設備の充実とその活用方法が課題である。	・公立中の部活動が地域へ移行していくという今後の流れの中で、生徒のやりたいことが見つけれられる学校として様々な選択肢を持って頂きたい。	A

○達成度 A: 充分達成 (100%) B: 概ね達成 (80%程度) C: 変化の兆し無し (50%前後) D: まだ不十分 (30%程度) E: 方策の見直し (20%未満)